

歴史教科書の問題を改善すべく 議員として行った事

港区議会議員 ^{しま}とよ島 くにひろ



私がこの度、教科書の問題を取り上げるきっかけになったのは、教科書をつくる会の土屋敬之先生との出会いでした。元々自身が僧侶というご縁で月に1回程度、自坊で様々な勉強会を開催しており、その中の一つが『歴史教科書の問題』でした。

事前の土屋先生との打ち合わせの際に中学校の歴史教科書の採択の時期が近付いており、一般質問を行うのであれば、2024年の今年の第一回定例会が最適であるとの事を伺いました。

そこで急遽周りの議員を集め、議員向けの講義を企画しました。その場に出席した議員の多くは早速、次の定例会の中で歴史教科書についての質問を行おうという話でまとまりました。学びの後の酒の席は大いに盛り上がり、新しいアイデアが出る事が多々あります。それは一般質問を行う前に、参政党の東京議員団として記者会見を行うことでした。その記者会見に臨んだ議員は皆初めての経験でしたが『どうせやるなら派手にやろう』と意識を切り替えました。今思うと、その様子を動画で配信したことは、少なくともその動画を見た国民がこの問題を知るきっかけになったという事も一つの成果だと思っています。

その後、第一回定例会において港区で使用されている歴史教科書の自虐史観についての問題点の指摘を行い、次に、それを採択している教育委員を議会が承認している事についての問題点を改善すべ

く、区長が教育委員を指名した後に議会が承認するまでの期間が1日というのは審議するには短すぎるので延長するよう区長に対し要望を表明いたしました。これについて反応したのは港区議会の鈴木議長でした。鈴木議長も若い時に同じ問題を考えていたからです。そして議長も改善に動き、早速今回の第一回定例会から教育委員の選任について議会が承認するまでの時間が延長され、今まで1日だったものが7日に延長されました。

また第二回定例会以降は議会で新教育委員の審査を兼ねて、議会から関係者に質問等を行える仕組みを作るという方向性が決まりました。つまり的確でないと議会が判断した場合、区長から指名されたとしても議会が承認しないという事が可能となったのです。

私は今回の件で条件さえ整えば、一人でも政治を変えられる事を学びました。何事もやってみなければ分かりません。どんどん困難と思える事にも挑戦し、正しいことを行っていれば、徐々に賛同者が増え、不可能は可能になる。だから政治は面白いのだと思います。

とよしま・くにひろ

2003年、B'zの所属する音楽制作会社ビーイングよりBUZZLIPとしてメジャーデビュー。現在の音楽活動：仏教バンド「沙門」、政治系バンド「沙門と僕」。その後MBAを取得後、港区林泉寺副住職となり書道師範、全国有志僧侶の会を立ち上げる。日本を救うには政治を変える必要性を感じ、港区議会議員となる。